

令和6年度

学校評価書

坂井市立三国西小学校



令和6年度 三国西小学校 スクールプラン

【児童の実態】

- ☆素直で優しく活動的な子が多い
- ☆学校のために活動に積極的に取り組む子が多い
- ☆自分から発表できる子が増えた
- ☆時間を守って行動できる
- ★自分の思いをしっかりと伝える力が不十分

【めざす学校像】

- ・子どもが「**通うのが楽しい**」学校
- ・家庭・地域に「**信頼**」される学校
- ・教職員が「**やりがいのある**」学校

【学校教育目標】

響き合う元気な声とキラキラ笑顔 ～未来へつなぐ楽しい学校～

【めざす児童像】＝「西っ子ならできる5か条」

- みんなで仲良く助け合おう
- くるしくてもあきらめず最後までがんばろう
- にこにこ笑顔で、元気よくあいさつをしよう
- にっこう（日光）の下で元気よく遊び、運動しよう
- しっかり話を聞き、よく考え、思いを伝えあおう

【家庭・地域の願い】

- 安心・安全な学校生活
- より良い人間関係の構築
- 児童理解と成長に関わる適切な指導・支援

【教師の願い】

- ◆自分も相手も大切にできる子
- ◆相手の話をしっかり聞き、自分の思いや考えを伝えられる子
- ◆正しく判断し自ら行動できる子
- ◆失敗を恐れず、チャレンジできる子

重点目標

確かな学力

- ◎楽しくわかる授業づくり
- ◎思考力・表現力の育成
- 基礎基本の定着と読解力の育成

豊かな心・健やかな体

- ◎笑顔と元気な声が響く楽しい学校づくり
- よさを認め合う温かな学級づくり
- 健康教育の充実と基本的な生活習慣の確立

安心安全な学校・信頼される学校

- ◎家庭・地域と連携した教育活動の実践
- 危機管理体制の充実と意識向上
- 家庭と連携した情報モラル教育の推進

具体的な取組

- ◎基礎・基本の定着とともに「引き出す・楽しむ教育」を実践し、子供の主体性を育む
 - ・学習ルールの徹底（西小スタンダード）
 - ・見通しを持って粘り強く取り組み、自分の学習を振り返って次につなげる
- ICT機器を効果的に活用し、**個別最適で手をかけすぎない授業づくり**を行う
- 自分の考えを伝える力を育成する
- 朝読書や家庭での読書を推進し、読書活動の充実を図る

【数値目標】

- ・授業に主体的に取り組んでいる児童90%以上
- ・学習ルールを守っていると答える児童90%以上
- ・図書貸し出しの個人目標達成児童70%以上
- ・家庭学習にしっかり取り組む児童が90%以上

- ◎あいさつ運動を推進する
- ◎心が育つ環境づくりを行う
 - ・環境美化・整理整頓
- 体力の向上を図る
 - ・体育の充実と継続的な運動習慣の確立
- 魅力ある学校づくりを進めるため、教育相談の充実と**ポジティブ教育の推進**を図る
- 健康的な生活習慣を育成する
 - ・歯と口の健康、眠育、食育の充実を図る
- 人権尊重の意識を育てる

【数値目標】

- ・学校が楽しいと答える児童90%以上
- ・進んで挨拶ができたと答える児童90%以上
- ・適切な朝食、睡眠が習慣化された児童90%以上
- ・運動するのが好きと答える児童90%以上

- ◎地域と連携した教育活動を積極的に展開し、地域やふるさとへの愛着や誇りを育てる
(ふるさとの良さを学ぶ地域学習と人材活用)
- お便りやHP等で、積極的に学校の情報を発信する
- 学校公開の推進、学級懇談会等を通じて、保護者との信頼関係づくりに取り組む
- 安全・安心な生活・登下校時や学校内での安全指導、防災、防犯教育を充実する

【数値目標】

- ・学校の様子がよく伝わったと答える保護者85%以上
- ・地域のことがわかったと答える児童90%以上
- ・気軽に学校に相談できると答える保護者85%以上
- ・保護者に積極的に情報発信できた教職員90%以上

【業務改善のために】 ①ICTの日常的な活用②会議の効率化・行事の精選③タイムマネジメントのスキル向上④チームによる課題解決（児童対応・行事・授業づくり）

学校評価書の見方について

項目・重点目標・具体的取組は、今年度のスクールプランに示された内容で、学校として特に重点的に取り組むものです。

目標指数は、アンケートにおける、判断基準のA+Bの割合の目標値を示しています。

結果は、回答者のAまたはBと判断した割合で示しています。目標指数に達した場合○、達しない場合▲で表しています。

重点目標	◎楽しくわかる授業づくり ○思考力・表現力の育成	力の育成	基本の定着と読解力の育成			
具体的な取組	◎基礎・基本の定着とともに「引き出す・楽しむ」を実践し、主体的性を育む ・学習ルールの徹底（西小スタンダード） ・見通しを持って粘り強く取り組み、自分の考えを振り返って高める ○ICT機器を効果的に活用し、個別最適で手探りを繰り返す 伝えを伝える力を育成する 家庭での読書を推進し、読書活動の計画を図る					
回答者は、アンケートの回答者です。						
回答者	評価の観点	判断基準	R 6	R 5	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果	
教職員	取組指標	分かる喜び、学ぶ楽しさを実感できる授業を、				
	分かる喜び学ぶ楽しさを実感できるような授業を行う。	A よくできた B だいたいできた C あまりできなかった D ほとんどできなかった	100	90 ▲	100	90% 10%
	(目標指数) A+Bの合計が100%					
	(満足度指標)	授業が				
児童	児童が授業の内容を楽しんでいると感じる。	A とてもたのしい B たのしい C あまりたのしくない D たのしくない	85 以上	92 ○	91	92% 8%
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上					
	《結果・考察》		《改善・取組》			

判断基準は、それぞれの指標を求めるために設定し、アンケートの設問に使用しています。

グラフは「A+B」と「C+D」の割合を示しています。

学校生活についてのアンケート 回答数 102/102

三国西小学校

これはテストではありません。みなさんの学校に対する思いや願いを聞きながら、三国西小学校をよりよくしていくためのアンケートです。自分の思っているとおりに書きましょう。

※アンケートはグーグルフォームで行っています。

あてはまるところに○をつけましょう。 年 組 名前

学	1	授業が	回答 らん
		A とてもたのしい	
		B たのしい	
		C あまりたのしくない	
		D たのしくない	
学	2	授業の内容が	回答 らん
		A よくわかる	
		B だいたいわかる	
		C あまりわからない	
		D わからない	
学	3	学習のルール(姿勢、返事、あいさつ)を	回答 らん
		A いつもまもっている	
		B だいたいまもっている	
		C あまりまもっていない	
		D まもっていない	
学	4	読書をするのが	回答 らん
		A とてもたのしい	
		B たのしい	
		C あまりたのしくない	
		D たのしくない	
学	5	図書かしのこじん自ひょうを	回答 らん
		A たっせいできた	
		B 3学期終業式までにたっせいできる	
		C たっせいできないかもしれない	
		D たっせいできない	
学	6	しゅくだいや自主学習に	回答 らん
		A しっかりとりくめた	
		B だいたいとりくめた	
		C あまりとりくめなかった	
		D とりくめなかった	
学	7	生活や総合の学習で自分の地域のことが	回答 らん
		A よくわかった	
		B だいたいわかった	
		C あまりわからなかった	
		D わからなかった	

学	8	自分の意見や考えを友達に伝えることが	回答 らん
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
		D できなかった	
心	9	だれにでも親切にすることが	回答 らん
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
		D できなかった	
心	10	友達や先生、家の人、地域の方々などに自分から、あいさつが	回答 らん
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
		D できなかった	
心	11	学級の仕事や委員会活動など、みんなのためになる活動に、	回答 らん
		A しっかりとりくめた	
		B だいたいとりくめた	
		C あまりとりくめなかった	
		D とりくめなかった	
心	12	「口をとじて、すみずみまで時間いっぱい」せいそう活動が	回答 らん
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
		D できなかった	
心	13	どの学年の子とも協力し、なかよく活動が	回答 らん
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
		D できなかった	
心	14	学校で楽しく生活することが	回答 らん
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
		D できなかった	

あてはまるところに○をつけましょう。

	身の回りの整理整頓が	かいとう 回答 らん
15 心	A いつもできた	
	B だいたいできた	
	C あまりできなかった	
	D できなかった	
	進んで体をきたえることが (昼休み、スポーツ少年団などをふくむ)	かいとう 回答 らん
16 体	A 週3回 以上できた	
	B 週1～2回できた	
	C できない週が多かった	
	D できなかった	
	運動することが	かいとう 回答 らん
17 体	A とてもたのしい	
	B たのしい	
	C あまりたのしくない	
	D たのしくない	
	「早寝・早起き・朝ごはん」にとりくむことが	かいとう 回答 らん
18 体	A よくできた	
	B だいたいできた	
	C あまりできなかった	
	D できなかった	
	ゲーム・インターネット・タブレットの使い方の約束 やマナーを家や学校で	かいとう 回答 らん
19 体	A よくまもれた	
	B だいたいまもれた	
	C あまりまもれなかった	
	D まもれなかった	
	正しいしせいで人の話を聞くことが	かいとう 回答 らん
20 体	A いつもできた	
	B だいたいできた	
	C あまりできなかった	
	D できなかった	
	食事の後に歯をみがくことが	かいとう 回答 らん
21 体	A いつもできた	
	B だいたいできた	
	C あまりできなかった	
	D できなかった	

	きょういく そう だん 教育相談のときやこまったことがあったとき、先 んせい おや ともだち 生や親、友達に	かいとう 回答 らん
22 信	A はなせた	
	B だいたいはなせた	
	C あまりはなせなかった	
	D はなせなかった	
	いじめやただ正しくないことを見たら、大人に知らせた り、とめたりすることが	かいとう 回答 らん
23 信	A いつもできた	
	B だいたいできた	
	C あまりできなかった	
	D できなかった	

学校教育活動についてのアンケート 回答数 51/102

(回答数内訳)

1年 8 2年 5
3年 11 4年 6
5年 10 6年 11

【保護者の皆様へ】

三国西小学校

※アンケートはGoogleフォームで行っています。

ご記入下さい 学年 年 差し支えなければご記名ください お名前

確かな学力	1	お子さんは、授業の内容を	回答欄	7	子どもと決めたゲーム・インターネット (Youtube・スマホ・タブレット・LINE など)の	回答欄
		A よく分かっている			A ルールがあり、しっかり守らせることができた	
		B だいたい分かっている			B ルールがあり、だいたい守らせることができた	
		C すこし分かっている			C ルールはあるが、守らせることはできなかった	
	D あまり分かっていない		D ルールを決めていない			
	2	お子さんは、学校や家庭で読書を	回答欄	8	お子さんは、食事の後に歯をみがくことが	回答欄
		A よくしている			A できている	
		B ときどきしている			B だいたいできている	
		C あまりしていない			C あまりできていない	
	D していない		D できていない			
	3	お子さんは、自ら家庭学習 (宿題・自主学習)に	回答欄	9	学校生活のことで気になることがあった時、教職員に相談してみようと思いますか。	回答欄
		A 取り組んでいる			A 思う	
B だいたい取り組んでいる			B だいたいそう思う			
C あまり取り組んでいない			C あまり思わない			
D 取り組んでいない		D 思わない				
豊かな心	4	お子さんは、人に優しい行動が	回答欄	10	おたよりやホームページ、お子さんとの会話から、教育活動など学校の様子が	回答欄
		A できている			A よく分かった	
		B だいたいできている			B 分かった	
		C あまりできていない			C あまり分からなかった	
	D できていない		D 分からなかった			
	5	お子さんは、家庭でのあいさつが	回答欄	11	学校は、いじめや差別のない学校づくりを大切にしていると	回答欄
		A できている			A 思う	
		B だいたいできている			B だいたいそう思う	
C あまりできていない			C あまり思わない			
D できていない		D 思わない				
健やかな体	6	お子さんは、「早寝、早起き、朝ごはん」が	回答欄	自由記述欄		
		A よく実践できた				
		B だいたい実践できた				
		C もう少しだった				
D できなかった						

教育評価（教職員用） 回答数 11/11

三国西小学校をさらによくするための学校評価です。評価欄のA～Dの該当する回答欄に「1」を入力してください。担当外などわからない設問は、無回答で結構です。

※アンケートはGoogleフォームで行っています。

確かな学力	1	分かる喜び、学ぶ楽しさを実感できる授業を、	回答欄
		A よくできた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	2	基礎基本の定着に重点を置き、計画的に学習指導が、	回答欄
		A よくできた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	3	学習ルールの確立や徹底のための指導(挨拶・返事・姿勢など)を、	回答欄
		A 意識して行った	
		B だいたい意識して行った	
		C ほとんど行わなかった	
	4	読書ファイルを有効に活用し、読書の習慣化を図る指導を、	回答欄
		A 毎月できた	
		B ほぼできた(1・2回しない)	
		C あまりできなかった(2ヶ月に1度程度)	
	5	計画的に宿題や自主学習を出して指導を	回答欄
		A 毎日行った	
		B だいたい行った	
		C あまり行っていない	
	6	ふるさと学習で児童が自分の地域のよさを見つけられるような指導が	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	7	自分の考えを伝える指導が	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
8	思いやりのある心を育てるための指導の工夫が、	回答欄	
	A できた		
	B だいたいできた		
	C あまりできなかった		
9	年3回の教育相談週間などを通して児童の心のケアが、	回答欄	
	A できた		
	B だいたいできた		
	C あまりできなかった		
10	自ら進んであいさつができるように指導が、	回答欄	
	A できた		
	B だいたいできた		
	C あまりできなかった		
11	児童が学級の仕事や奉任的活動などに積極的に取り組むよう指導が、	回答欄	
	A できた		
	B だいたいできた		
	C あまりできなかった		
12	縦割り班活動で児童が協力し、仲良く活動するための指導が、	回答欄	
	A できた		
	B だいたいできた		
	C あまりできなかった		
13	身の回りの整理整頓をする指導を、	回答欄	
	A 週1回以上できた		
	B 月1～2回できた		
	C あまりできなかった		
14	児童が自分の学習の進捗を把握し、自己管理をする指導が、	回答欄	
	A できた		
	B だいたいできた		
	C あまりできなかった		



豊かな心	8	思いやりのある心を育てるための指導の工夫が、	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	9	年3回の教育相談週間などを通して児童の心のケアが、	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	10	自ら進んであいさつができるように指導が、	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	11	児童が学級の仕事や奉任的活動などに積極的に取り組むよう指導が、	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	12	縦割り班活動で児童が協力し、仲良く活動するための指導が、	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	13	身の回りの整理整頓をする指導を、	回答欄
		A 週1回以上できた	
		B 月1～2回できた	
		C あまりできなかった	
	14	児童が自分の学習の進捗を把握し、自己管理をする指導が、	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	

健やかな体	14	体力づくりに意欲的に取り組めるような指導を、	回答欄
		A 積極的に行った	
		B だいたい行った	
		C あまり行わなかった	
	15	「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を、	回答欄
		A よく行った	
		B だいたい行った	
		C あまり行わなかった	
	16	ゲーム・インターネット（SNS）利用の健全な習慣が身につくよう指導を、	回答欄
		A よく行った	
		B だいたい行った	
		C あまり行わなかった	
	17	正しい姿勢で話を聞く指導を、	回答欄
		A よく行った	
		B だいたい行った	
		C あまり行わなかった	
18	むし歯治療に関する指導を	回答欄	
	A よく行った		
	B だいたい行った		
	C あまり行わなかった		
		D ほとんど行わなかった	

信頼される学校	19	学習指導や児童の状況について教員間で共有することが、	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	20	面談・欠席者への連絡・気がかりな事等の話し合いなどを通して保護者とのコミュニケーションを図ることが、	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	21	児童がいじめや正しくないことを見たら、大人に知らせたり、とめたりすることができるような指導が	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
	22	学校との連携を推進するために、保護者や地域へのおたよりやホームページ等で情報発信を効果的に、	回答欄
		A できた	
		B だいたいできた	
		C あまりできなかった	
		D できなかった	

<成果・意見・改善案>

確かな学力 学校評価総合シート

重点目標		◎楽しくわかる授業づくり ○思考力表現力の育成 ○基礎基本の定着と読解力の育成					
具体的な取組		◎基礎・基本の定着とともに「引き出す・楽しむ教育」を実践し、子供の主体性を育む ・学習ルールの徹底（西小スタンダード） ・見通しを持って粘り強く取り組み、自分の学習を振り返って次につなげる ○ICT機器を効果的に活用し、個別最適で手をかけすぎない授業づくりを行う ○自分の考えを伝える力を育成する ○朝読書や家庭での読書を推進し、読書活動の充実を図る					
回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%) C+D(%)	
			目標	結果	結果		
教職員	取組指標	分かる喜び、学ぶ楽しさを実感できる授業を、	100	90	100		
	分かる喜び学ぶ楽しさを実感できるような授業を行う。	A よくできた					
	(目標指数) A+Bの合計が100%	B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
		D ほとんどできなかった					
児童	(満足度指標)	授業が	85 以上	92	91		
	児童が授業の内容を楽しんでいると感じる。	A とてもたのしい					
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上	B たのしい					
		C あまりたのしくない					
		D たのしくない					
《結果・考察》			《改善・取組》				
<p>・教職員の数値が目標に達していないが、工夫や努力をしたけれども思うような結果に結びつかないこともあったのではないかと考えられる。児童の数値は目標の数値を上回ることができており、わかる喜び学ぶ楽しさを実感できるような授業を行うことができていますと考えられる。</p> <p>・ICT機器を効果的に活用し、個別最適で手をかけすぎない授業づくりを行う。</p> <p>・朝活動の時間を帯どりすることで、ICT・読書・学習の時間を毎朝しっかり確保することができた。</p>			<p>・これまでと同様に、今年度の授業実践のデータを残し、次年度も引き継げるようにする。</p> <p>・引き続きICTを有効活用する。自分に合ったレベルの課題に取り組みさせることによって、個々の学習力をアップさせる。</p> <p>・「やればできる」という達成感を感じられる課題や体験活動を織り込む。</p> <p>・教師が手をかけすぎない授業や児童に考えさせる指導を今後も継続的に行っていく。</p>				

確かな学力 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)		C+D(%)	
			目標	結果	結果				
教職員	取組指標	基礎基本の定着に重点を置き、計画的に学習指導が、	100	100	100				
	基礎基本の定着に重点を置き、計画的に学習指導を行う。	A よくできた							
	(目標指数)	B だいたいできた							
	A+Bの合計が100%	C あまりできなかった							
	D ほとんどできなかった	○							
児童	満足度指標	授業の内容が	90 以上	95	98				
	授業の内容がよく分かる。	A よくわかる							
	(目標指数)	B だいたいわかる							
	A+Bの合計が90%以上	C あまりわからない							
	D わからない	○							
保護者	満足度指標	お子さんは、授業の内容を	80 以上	84	81				
	子どもは、授業の内容を分かっている。	A よく分かっている							
	(目標指数)	B だいたい分かっている							
	A+Bの合計が80%以上	C すこし分かっている							
	D あまり分かっていない	○							
<p>《結果・考察》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員、児童、保護者の数値とも目標の数値を上回ることができており、基礎基本の定着に取り組めたと考えられる。 ・タブレット活用をさらに進めていくためにも、朝学習にキーボード入力の時間がとれるとよい。学年に合わせて、タイピングソフトを使い分けていくと、低学年でも取り組めると思う。研究にも探究的な学びや自由進度学習の要素を取り入れていくとよい。今後の学習形態はこれまでと違うものになっていくと思う。 			<p>《改善・取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国語・算数の単元ごとの小テストは児童の励みになっており、基礎基本の定着を図るために続けていく。 ・ラインズやすららドリルの結果を活用し、復習に取り組ませる。 ・学年の実態に応じたタイピングソフトを用いて、朝学習のICTの時間に、自分でドリル学習（ラインズ・すららドリル）・タイピング学習を選択して学習できるようにする。研究については、教員間で相談しながら進めていく。 						

確かな学力 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)		C+D(%)	
			目標	結果	結果				
教職員	取組指標	学習ルールの確立や徹底のための指導(姿勢・返事・挨拶など)を、	100	100	100				
	学習ルールの確立や徹底を図る	A 意識して行った							
	(目標指数)	B だいたい意識して行った							
	A+Bの合計が100%	C ほとんど行わなかった							
		D 行わなかった							
児童	成果指標	学習のルール(あいさつ、返事、姿勢)を	90 以上	95	95				
	児童が、学習のルール(姿勢、返事、あいさつ)を守る。	A いつもまもっている							
	(目標指数)	B だいたいまもっている							
	A+Bの合計が90%以上	C あまりまもっていない							
		D まもっていない							
<p>《結果・考察》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西っ子スタンダード以外にも、感染症対策のルールも有り、教職員が気をつけるルールが多くなっている。児童はルールを守って生活していると考えている。 ・今年度から、西っ子ファイルがなくなったこともあって、スマートルールもなくなった。次年度は、スマートルールもしくはそれに代わるものがあるとい 			<p>《改善・取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・魅力ある学校作りのPDCAシートの確認の時に、西っ子スタンダードも再確認し、改善すべき点がないかなどを学期毎に振り返る。 ・「睡眠・朝食・メディア調べ」にスマートルールも組み込み、チェック欄も設けるようにする。 						

確かな学力 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)		C+D(%)	
			目標	結果	結果				
教職員	取組指標 読書ファイルを有効に活用し、読書の習慣化を図る指導をする。	読書ファイルを有効に活用し、読書の習慣化を図る指導を、	100	100	86				
	(目標指数) A+Bの合計が100%	A 毎月できた							
		B ほぼできた(1・2回しない)							
		C あまりできなかった(2ヶ月に1度程度)							
		D できなかった							
児童	満足度指数 読書をするのが楽しいと感じる。	読書をするのが	80 以上	76 ▲	75				
	(目標指数) A+Bの合計が80%以上	A とてもたのしい							
		B たのしい							
		C あまりたのしくない							
		D たのしくない							
保護者	成果指標 子どもは、読書をする時間をもっている。	お子さんは、学校や家庭で読書を	70 以上	59 ▲	57				
	(目標指数) A+Bの合計が70%以上	A よくしている							
		B ときどきしている							
		C あまりしていない							
		D していない							
児童	成果指標 図書貸し出しの個人目標を達成できた。	図書貸し出しの こじん目ひょうを	70 以上	75 ○	68				
	(目標指数) A+Bの合計が70%以上	A たっせいできた							
		B 3月末までにたっせいできる							
		C たっせいできないかもしれない							
		D たっせいできない							
《結果・考察》 ・外遊びの推奨により、昼休みの図書室利用が減ったと考えられる。 ・本を借りたり読書をしたりしていても、読書ファイルに記入するのを忘れていた児童がいると思われる。			《改善・取組》 ・週末読書を毎週末、全学年取り組む。 ・読書ファイルに家庭読書のチェック欄を設け、月1回程度チェックしてもらう。親子読書を推進する。 ・手元に本を一人1冊必ず持たせ、担任からの読書推進に関する声かけを継続する。 ・読み聞かせを継続し、読み聞かせしてもらった本も読書ファイルに記入する。						

確かな学力 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指数	計画的に宿題や自主学習を出して指導を	100	100	100	100%	0%
	家庭学習を計画的に出して指導することができた。 (目標指数) A+Bの合計が100%	A 毎日行った		○			
		B だいたい行った					
		C あまり行っていない					
	D 行っていない						
児童	成果指数	しゅくだいや自主学習に	90 以上	94	96	94%	6%
	家庭学習にしっかり取り組むことができた。 (目標指数) A+Bの合計が90%以上	A しっかりとりくめた		○			
		B だいたいとりくめた					
		C あまりとりくめなかった					
	D とりくめなかった						
保護者	成果指数	お子さんは、自ら家庭学習(宿題・自主学習)に	85 以上	82	68	82%	18%
	児童は、自ら家庭学習に取り組んでいた。 (目標指数) A+Bの合計が85%以上	A 取り組んでいる		▲			
		B だいたい取り組んでいる					
		C あまり取り組んでいない					
	D 取り組んでいない						
《結果・考察》 ・保護者からの声かけがなくても「自ら」家庭学習に取り組んでいるかと問われると、言えないと感じる保護者がいると考えられる。 ・毎週末タブレット宿題を課したことで、保護者の目標値に達してはいないものの、昨年より数値が上がったと考えられる。			《改善・取組》 ・学年の実態に応じて、シールなどを用いて児童の頑張りが目に見える形で励ましたり、各教室で学習物を掲示したりすることを継続していく。 ・保護者参加型のタブレット宿題ができないか探っていく。				

確かな学力 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指数 ふるさと学習で児童が自分の地域のよさを見つけられるような指導ができた。	ふるさと学習で児童が自分の地域のよさを見つけられるような指導が	100	100	89		
		A できた					
		B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
(目標指数) A+Bの合計が100%	D できなかった	○					
児童	成果指数 生活や総合の時間を通して自分の地域のことが理解できた。	生活や総合の学習で自分の地域のことが	90 以上	96	99		
		A よくわかった					
		B だいたいわかった					
		C あまりわからなかった					
(目標指数) A+Bの合計が90%以上	D わからなかった	○					
《結果・考察》 ・全体的に高い数値となっていると考える。 ・児童が異学年の児童の前で発表する機会を設定していく必要がある。			《改善・取組》 ・3学期にまとめたことを次の学年に継続できるようにする。 ・学年間のつながりが系統立っているかどうかを再確認する。 ・異学年に対する発表会として学習発表会を設定する。児童が人前で話す体験をする場としていく。6年生を送る会は学習発表会という形ではなく、卒業生と簡単なゲームをするなど、全校児童や縦割り班に分かれて卒業生との最後の思い出を作っていく場とする。				

確かな学力 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指数 自分の考えを伝える力を育成する (目標指数) A+Bの合計が80%	自分の考えを伝える指導が	100	100	100	100%	0%
		A できた					
		B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
	D できなかった						
児童	成果指数 自分の意見や考えを友達に伝えることができた。 (目標指数) A+Bの合計が80%以上	自分の意見や考えを友達に伝えることが	80 以上	91	92	91%	9%
		A できた					
		B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
	D できなかった						
《結果・考察》 ・全体的に高い数値となっている。 ・長い昼休みの時間に、ただ仲間と体を動かして遊ぶだけではなく、何かをつくったり、調査したりするような活動が生まれるとよい。			《改善・取組》 ・今後も学習活動・行事等で、自ら考え、考えや意見を伝え合う活動を取り入れていく。 ・長い昼休みにあるおしゃべりタイムでの製作活動を今以上に推奨する。また、学年に応じてタブレットを活用し、学年畑・植物・昆虫などに興味のあるものについて、個々で調べる活動も推奨する。				

魅力ある学校作り意識調査

(令和6年12月実施)

授業に主体的に取り組んでいる児童の割合

(回答数) (割合)

A (当てはまる)	57	56%	A+B=	94%	○
B (どちらかといえば当てはまる)	39	38%			
C (どちらかといえば当てはまらない)	6	6%			
D (当てはまらない)	0	0%			

(目標指数) A+Bの合計が90%以上

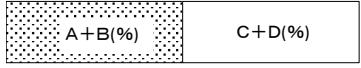
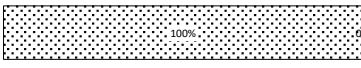
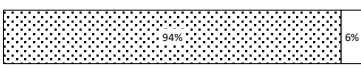
豊かな心 学校評価総合シート

重点目標		◎笑顔と元気な声が響く楽しい学校づくり ○よさを認め合う温かな学級づくり					
具体的な取組		◎あいさつ運動を推進する ◎心が育つ環境づくりを行う（環境美化・整理整頓） ○魅力ある学校づくりを進めるため、教育相談の充実とポジティブ教育の推進を図る ○人権尊重の意識を育てる					
回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指標	思いやりのある心を育てるための指導の工夫が、	100	100	100	100%	0%
	思いやりの心を育てるために、道徳の授業や日々の関係づくりを工夫する。	A できた					
	(目標指数) A+Bの合計が100%	B だいたいできた					
	C あまりできなかった						
	D できなかった						
教職員	取組指標	年3回の教育相談週間などを通して児童の心のケアが、	100	100	100	100%	0%
	教育相談週間などを通して、児童の心のケアに努める。	A できた					
	(目標指数) A+Bの合計が100%	B だいたいできた					
	C あまりできなかった						
	D できなかった						
保護者	満足度指標	お子さんは、人に優しい行動が	85 以上	98	92	98%	2%
	子どもは、思いやり的心をもった行動がとれていると感じている。	A できている					
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上	B だいたいできている					
	C あまりできていない						
	D できていない						
児童	満足度指標	だれにでも親切にすることが	85 以上	95	94	95%	5%
	誰にでも親切にすることがができる。	A できた					
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上	B だいたいできた					
	C あまりできなかった						
	D できなかった						
《結果・考察》 ・全項目、目標を達成しており、昨年よりも数値が上がっている。			《改善・取組》 ・教育活動全般を通して道徳教育を引き続き行っていく。 ・今後も物事に対して前向きな児童の育成に努める。				

豊かな心 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%) C+D(%)	
			目標	結果	結果		
教職員	取組指標 自ら進んであいさつができるよ うな指導をする。 (目標指数) A+Bの合計が100%	自ら進んであいさつができるように指導が、	100	100	100		
		A できた					
		B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
D できなかった							
保護者	満足度指数 子どもは、進んであいさつがで きていると感じている。 (目標指数) A+Bの合計が90%以上	お子さんは、家庭でのあいさつが	90 以上	90	84		
		A できている					
		B だいたいできている					
		C あまりできていない					
D できていない							
児童	満足度指数 自分から進んで友達・先生・家 の人・地域の方々などにあいさ つすることができる。 (目標指数) A+Bの合計が90%以上	友達や先生、家の人、地域の方々などに自分からあ いさつが	90 以上	94	92		
		A できた					
		B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
D できなかった							
《結果・考察》 ・目標数値には達しているものの、挨拶ができない子が増えているとい う意見もある。挨拶はしているが、相手に伝わる挨拶ができているとは 言えないのではないか。			《改善・取組》 ・道徳や学活などで、継続的に挨拶の大切さを伝えてい き、自分から挨拶ができる児童を育てていく。				

豊かな心 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%) C+D(%)	
			目標	結果	結果		
教職員	取組指標 児童が学級の仕事や奉仕活動などに積極的に取り組むよう指導する。 (目標指数) A+Bの合計が100%	児童が学級の仕事や奉仕的活動などに積極的に取り組むよう指導が、 A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった	100	100	100		
	満足度指数 掃除、学級の仕事など、みんなのためになる活動に積極的に取り組めた。 (目標指数) A+Bの合計が85%以上	A しっかりとりくめた	85 以上	98	98		
		B だいたいとりくめた					
		C あまりとりくめなかった					
D とりくめなかった							
児童	成果指標 「口を閉じて・時間いっぱい・隅々まで」清掃活動に取り組めた。 (目標指数) A+Bの合計が85%以上	「口を閉じて、すみずみまで時間いっぱい」せいそう活動が A できた B だいたいできた C あまりできなかった D できなかった	85 以上	94	95		
	《結果・考察》 ・掃除場所が、低学年は廊下、高学年は教室やトイレと偏りがあるため、声かけや助け合いなど縦割りによる掃除の良さが生かされていないのではないか。 ・清掃は、やり方や場所の工夫が必要な時期にきていると思う。		《改善・取組》 ・縦割りで行う良さを意識した配置にするなど、再編が必要。特別教室は週1回の掃除にしたり、トイレ掃除は支援員さんの協力を得たりするなど、児童数減少にも対応できるよう工夫する。				

豊かな心 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指数	縦割り班活動で児童が協力し、仲良く活動するための指導が、	100	100	100	100%	0%
		A できた					
		B だいたいできた					
	(目標指数) A+Bの合計が100%	C あまりできなかった					
		D できなかった		○			
児童	成果指数	どの学年の子とも協力し、なかよく活動が	85 以上	98	97	98%	2%
		A できた					
		B だいたいできた					
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上	C あまりできなかった					
		D できなかった		○			
児童	成果指数	学校で楽しく生活することが	90 以上	98	97	98%	2%
		A できた					
	学校で楽しく生活することができる。	B だいたいできた					
	(目標指数) A+Bの合計が90%以上	C あまりできなかった					
		D できなかった		○			
《結果・考察》 ・異学年との交流が増え、充実した学校生活を送ることができている。			《改善・取組》 ・次年度も積極的に異学年交流を進めていく。				

豊かな心 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指数 児童が、身の回りの整理整頓をできるような指導や工夫に取り組む。	身の回りの整理整頓をする指導を、	100	100	100		0%
		A 週1回以上できた					
		B 月1～2回できた					
		C あまりできなかった					
	(目標指数) A+Bの合計が100%	D できなかった		○			
児童	成果指数 身の回りの整理整頓ができる。	身の回りの整理整頓とんが	85 以上	89	88		11%
		A いつもできた					
		B だいたいできた					
		C あまりできなかった					
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上	D できなかった		○			
《結果・考察》 ・整理整頓が苦手な児童、身についていない児童がいる。			《改善・取組》 ・身の回りの整理整頓をする時間を設けるようにし、習慣化を図るようにする。 ・どうしてもできない児童は教員と一緒に片付けるようにし、少しずつ手を離していく。				

健やかな体 学校評価総合シート

重点目標		◎笑顔と元気な声が響く楽しい学校づくり ○健康教育の充実					
具体的な取組		○体力の向上を図る（体育の充実と継続的な運動習慣の確立） ○健康的な生活習慣を育成する（歯と口の健康、眠育、食育の充実を図る）					
回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指標	体力づくりに意欲的に取り組めるような指導を、	100	100	100		
	児童が体力づくりに主体的に参加できるような手立てを工夫する。	A 積極的に行った					
	(目標指数) A+Bの合計が100%	B だいたい行った					
		C あまり行わなかった					
		D ほとんど行わなかった					
児童	成果指標	進んで体をきたえることが（昼休み、スポーツ少年団などをふくむ）	85 以上	94	93		
	進んで自分の体力を向上することができたと感じている。	A 週3回以上できた					
	(目標指数) A+Bの合計が85%	B 週1~2回できた					
		C できない週が多かった					
		D できなかった					
児童	満足度指標	運動することが	90 以上	94	95		
	運動する楽しさを感じている。	A とてもたのしい					
	(目標指数) A+Bの合計が90%以上	B たのしい					
		C あまりたのしくない					
		D たのしくない					
《結果・考察》			《改善・取組》				
<ul style="list-style-type: none"> ・昼休み、積極的に外で運動する児童が増えてきたが、高学年を中心に、教室で過ごす児童が一定数いる。 ・児童の体力は平均的だが、粘り強さに欠ける様子が見られるときがある。 ・なわとびに積極的に取り組む児童が増えてきた。 ・体力づくりに取り組むために、ランニングフェスティバルは今後も継続した方がよいと思う。 			<ul style="list-style-type: none"> ・児童が体育の時間に使う小さめのドッジボールを2人に1個になるように増やす。 ・縦割りで外遊びをする企画を設け、さらに外で遊ぶ児童が増えるようにする。 ・遊具を使った運動遊びを体育の時間などに行う。 ・なわとび週間の間は、多目的ホールをなわとびスペースとして開放する。 ・体育の時間を中心に、体力づくりに取り組めるようにしていく。 				

健やかな体 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)		C+D(%)
			目標	結果	結果			
教職員	取組指標	「早寝・早起き・朝ごはん」の指導を、	100	100	100			
	児童が「早寝・早起き・朝ごはん」を実践できるような取り組みをした。	A よく行った						
	(目標指数) A+Bの合計が100%	B だいたい行った						
	C あまり行わなかった							
	D ほとんど行わなかった							
児童	成果指標	「早寝・早起き・朝ごはん」にとりくむことが	90 以上	85 ▲	90			
	健康のために「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組むことができた。	A よくできた						
	(目標指数) A+Bの合計が90%以上	B だいたいできた						
	C あまりできなかった							
	D できなかった							
保護者	満足度指標	お子さんは、「早寝・早起き・朝ごはん」が	85 以上	80 ▲	88			
	子どもが「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組むことができたと感じている。	A よく実践できた						
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上	B だいたい実践できた						
	C あまりできなかった							
	D できなかった							
《結果・考察》			《改善・取組》					
<p>・睡眠・朝食・メディア調べから、寝る時間が目標よりも遅くなった理由として、習い事が多かった。</p> <p>・家庭の生活リズムが子供の生活リズムに影響しているのかもしれない。</p>			<p>・睡眠・朝食・メディア調べの項目に、早寝早起きができなかった理由を記入できるようにする。</p> <p>・児童に時計を意識するように声掛けをする。</p> <p>・睡眠ログの取り組みは継続していく。</p> <p>・高学年の児童は、目覚まし時計を使って自分で起きれるようになるとうい。</p> <p>・保護者に対して睡眠の大切さについて呼びかけられる機会があるとよい。</p> <p>・早寝ができていない原因のひとつであるメディアの付き合い方について考えさせる機会をもうける。</p>					




健やかな体 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)		C+D(%)
			目標	結果	結果	A+B(%)		C+D(%)
教職員	取組指標	ゲーム・インターネット（SNS）利用の健全な習慣が身につくよう指導を、	100	100	100			
	児童がゲーム・インターネット利用の健全な習慣が身につくよう指導できた。	A よく行った						
		B だいたい行った						
	(目標指数) A+Bの合計が100%以上	C あまり行わなかった						
		D ほとんど行わなかった						
保護者	取組指標	子どもと決めたゲーム・インターネット（Youtube・スマホ・タブレット・LINEなど）の	80 以上	69	73			
	子どもとゲーム・インターネットを使うときのルールを決めて、守らせることができた。	A ルールがあり、しっかり守らせることができた						
		B ルールがあり、だいたい守らせることができた						
	(目標指数) A+Bの合計が80%以上	C ルールはあるが、守らせることはできなかった						
		D ルールを決めていない						
児童	成果指標	ゲーム・インターネット・タブレットの使い方の約束やマナーを家や学校で	85 以上	91	92			
	ゲーム・インターネットの使い方のマナーを守れた。	A よく守れた						
		B だいたい守れた						
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上	C あまり守れなかった						
		D 守れなかった						
《結果・考察》 ・保護者の数値は、家庭での児童の実情を表しているように思う。 ・本年度、スマートルールに取り組まなかったことで、家庭でのメディアルールについての意識付けができなかったのではないかと。			《改善・取組》 ・睡眠・朝食・メディア調べの中に、スマートルールを記入できるようにする。 ・親子でこの問題を考えてもらうため、学習会を開く。（福井大学子どものこころの発達研究センター 松崎秀夫教授の「ネット依存が脳に悪影響を及ぼす」のような内容） ・保護者に意識を高めてもらう。 ・SNSの使い方について、保護者向けまたは親子で聞くような講演会などを、参観授業等で取り入れていくことを検討していく。					

健やかな体 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)		C+D(%)
			目標	結果	結果			
教職員	取組指標	正しい姿勢で話を聞く指導を、	100	100	100	A+B(%)		
	正しい姿勢で話を聞く指導に取り組むことができた。	A よく行った				100%	0%	
	(目標指数) A+Bの合計が100%	B だいたい行った						
	C あまり行かなかった							
D ほとんど行かなかった								
児童	成果指標	正しいしせいで人の話を聞くことができる。	85 以上	85	85	A+B(%)		
	正しい姿勢で人の話を聞くことができる。	A いつもできた				85%	15%	
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上	B だいたいできた						
	C あまりできなかった							
D できなかった								
《結果・考察》 ・正しい姿勢がどういう状態であるか浸透してきたと考えられるが、継続してできている児童は少ない。			《改善・取組》 ・学校の学習ルールに「正しい姿勢で人の話を聞く」を入れて、毎日の指導を進める。 ・放送などで呼びかけるなど、正しい姿勢を意識させる。 (姿勢の身体への影響、学習、脳への影響)					

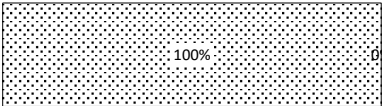
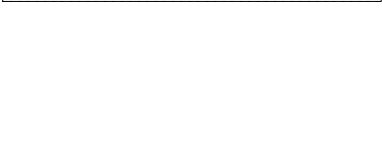
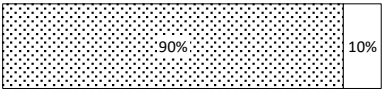



健やかな体 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)		C+D(%)	
			目標	結果	結果				
教職員	取組指数	むし歯治療に関する指導を	100	100	100				
	歯と口の健康を守るために、むし歯治療に関する指導に取り組むことができた。	A よく行った							100
		B だいたい行った							0
		(目標指数) A+Bの合計が100%以上							0
	C あまり行わなかった	0							
	D ほとんど行わなかった	0							
保護者	成果指標	お子さんは、食事の後に歯をみがくことが	80 以上	75	84				
	歯と口の健康を守るために、子どもは食事の後の歯みがきできていた	A できている							75
		B だいたいできている							0
		(目標指数) A+Bの合計が80%以上							0
	C あまりできていない	0							
	D できていない	0							
児童	成果指標	食事の後に歯をみがくことが	80 以上	95	95				
	歯と口の健康を守るために、食事の後に歯をみがくことができた。	A いつもできた							95
		B だいたいできた							0
		(目標指数) A+Bの合計が80%以上							0
	C あまりできなかった	0							
	D できなかった	0							
<p>《結果・考察》</p> <ul style="list-style-type: none"> 給食後の歯みがきは習慣化しているようだが、家庭で昼食後に歯みがきをする習慣化ができていないのかもしれない。 虫歯治療率は98%近くで、保護者の歯の健康に関する意識の高さを感じる。 			<p>《改善・取組》</p> <ul style="list-style-type: none"> 長期休業中には、歯みがきカレンダーに取り組みせて、意識付けさせる。 給食後、一斉に歯みがきをする時間を設けて、習慣づける。 保健委員会で定期的に歯ブラシチェックをする。 						

信頼される学校 学校評価総合シート

重点目標		◎家庭・地域と連携した教育活動の実践 ○危機管理体制の充実と意識向上 ○家庭と連携した情報モラル教育の推進					
具体的な取組		◎地域と連携した教育活動を積極的に展開し、地域やふるさとへの愛着や誇りを育てる。 ○お便りやHP等で、積極的に学校の情報を発信する。 ○学校公開の推進、学級懇談会等を通じて、保護者との信頼関係づくりに取り組む。 ○安全・安心な生活…登下校時や学校内での安全指導、防災、防犯教育を充実する。					
回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)	C+D(%)
			目標	結果	結果		
教職員	取組指標	学習指導や児童の状況について教員間で共有することが、	100	100	100	100%	0%
	学習指導や児童の状況について教員間で共有できた。	A できた					
		B だいたいできた					
	(目標指数) A+Bの合計が100%	C あまりできなかった					
		D できなかった					
《結果・考察》			《改善・取組》				
<p>・目標指数100%を達成することができた。西っ子スタンダードを作って実行したり、西っ子のきまりを随時見直したりして、全職員が足並みをそろえて指導できたこと、継続して終礼後に職員間の情報共有を行ってきたことなどが、目標達成の大きな要因であると考えられる。また、職員室の雰囲気がよく、何でも相談しやすいことも一因であると考え。</p>			<p>・今後も西っ子スタンダードや西っ子のきまりの共通理解や見直しを進め、三国中学校区の学校間でも情報共有や意見交換をし、小中連携を図る。 ・終礼時の情報共有は継続し、気がかりな点以外にも、良かった点、改善が見られた点についても情報交換できるような場にしていく。情報共有に関しては個人情報保護法に基づき情報を共有する範囲について慎重に検討し対応する。 ・教職員がもつ小さな悩みや困り感について細かく拾っていく取組をしていく。</p>				

信頼される学校 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	結果		
			目標	結果	結果	A+B(%)	C+D(%)	
教職員	取組指標	面談・欠席者への連絡・気がかりな事等の話し合いなどを通して保護者とのコミュニケーションを図ることが、	100	100	100			
	相談や児童・保護者との面談及び電話・連絡帳などを活用して、児童・保護者とのコミュニケーションを図ることができた。	A できた						○
	(目標指数) A+Bの合計が100%	B だいたいできた						
		C あまりできなかった						
		D できなかった						
保護者	満足度指標	学校生活のことで気になることがあった時、教職員に相談してみようと思えますか	85以上	90	91			
	学校生活のことで気になることがあれば、教職員に相談してみようと思う。	A 思う						○
	(目標指数) A+Bの合計が85%以上	B だいたい思う						
		C あまり思わない						
		D 思わない						
児童	満足度指標	教育相談のときやこまったことがあったとき、先生や親、友だちに	80以上	85	93			
	教育相談の時や必要なことがあった時、先生方に話すことができる。	A 話せた						○
	(目標指数) A+Bの合計が80%以上	B だいたい話せた						
		C あまり話せなかった						
		D 話せなかった						
《結果・考察》			《改善・取組》					
<p>・どの項目も目標指数を達成することができた。保護者への連絡が迅速に行われていること、保護者からの相談にも丁寧な対応がなされていること、教育相談週間を学期に1回ずつ設け、児童・保護者にアンケートをとり、児童と個人面談を行っていることが目標達成の要因だと考える。</p>			<p>・今後も保護者との連絡を密にし、教育相談週間も継続していく。また、児童の小さな変化を見逃さず、良い点や気がかりな様子を連絡帳や電話等で保護者にこまめに伝える活動も継続していく。</p> <p>・来年度導入される心の健康観察を活用し、普段の学校生活の中で児童の細かな変化を見逃さないようにして、児童と関わっていく。</p>					

信頼される学校 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)		C+D(%)
			目標	結果	結果			
教職員	取組指数 学年だよりやホームページ、連絡システムなどを活用し、 教育活動など学校の情報を発信した。 (目標指数) A+Bの合計が90%以上	学校との連携を推進するために、保護者や地域へのおたよりやホームページ等で情報発信を効果的に、	90 以上	100 ○	100	A+B(%)		C+D(%)
		A できた				100%		
		B だいたいできた						
		C あまりできなかった						
保護者	満足度指数 お子さんとの会話、おたよりやホームページ、連絡システムなどから、 教育活動など学校の様子がよく分かる。 (目標指数) A+Bの合計が85%以上	おたよりやホームページ、お子さんとの会話から、教育活動など学校の様子が	85 以上	90 ○	94	A+B(%)		C+D(%)
		A よく分かった				90%		10%
		B 分かった						
		C あまり分からなかった						
《結果・考察》 ・学年だよりやホームページについての保護者の評価は高く、目標指数を上回った。ブログでの更新も頻繁に行われ、学校の様子を保護者により詳しく伝えられたことが要因と考える。 また、Home&Schoolの導入も一因であると考えます。 ・「我が子は学校であった出来事について話したがらない。自分自身もホームページを見るのを忘れる。」という保護者からの声があった。 ・保護者向けの発信は事務からの「次月集金のお知らせ」を配信した。「今年度の集金予定」についても配信したほうがよいかや、就学援助制度のお知らせ、ゼッケンについても4月での紙配付だけではなく、配信の検討も必要と思う。			《改善・取組》 ・Home&Schoolを利用して、保護者に向けて様々な情報を提供していく。情報過多にならないよう提供する情報を精選していくことにも留意する。 ・引き続きブログの更新は、管理職が中心になって行い、担任は学年だよりの裏面に活動の様子が分かる写真を掲載するなどして、校外学習や普通の授業の様子を伝えるようにしていく。 ・今後もHome&Schoolを利用して、必要な情報を各家庭に提供していく。 ・「今年度の集金予定」「就学援助制度のお知らせ」については、来年度Home&Schoolで配信する。ゼッケンについては、代金の支払いが伴うため従来同様紙で配付する。ゼッケンの途中購入については、学校ホームページでゼッケン注文の様式がダウンロードできるようになっているのでそちらを案内する。					

信頼される学校 学校評価総合シート

回答者	評価の観点	判断基準	R 6		R 5	A+B(%)		C+D(%)
			目標	結果	結果			
教職員	成果指数	いじめや正しくないことを見たら、大人に知らせたり、とめたりすることができるような指導が	100	100	100			0%
		A できた						
		B だいたいできた						
		C あまりできなかった						
	(目標指数) A+Bの合計が100%以上	D できなかった	○					
保護者	満足度指数	学校は、いじめや差別のない学校づくりを大切にしている	80以上	90	93			10%
		A 思う						
		B だいたい思う						
		C あまり思わない						
	(目標指数) A+Bの合計が80%以上	D 思わない	○					
児童	成果指数	いじめや正しくないことを見たら、大人に知らせたり、とめたりすることが	80以上	90	87			10%
		A いつもできた						
		B だいたいできた						
		C あまりできなかった						
	(目標指数) A+Bの合計が80%以上	D できなかった	○					
《結果・考察》			《改善・取組》					
保護者と児童の結果がともに目標を上回った。児童の結果については昨年度の数値も上回っており、教員の継続的指導と人権教育や情報モラル教育の影響が考えられる。			・今後も児童の様子を注意深く見守り、いじめ予防の継続的な指導と人権教育や情報モラル教育の充実をはかる。具体的には情報モラル週間を設け、メディアリテラシーの授業を計画的・系統的に行ったり、情報モラルの公開授業や親子で学ぶメディア講演等を企画したりしていく。ポジティブ教育の取組も継続的に行っていく。					

令和6年度 三国西小学校学校関係者評価

家庭・地域・学校協議会より

確かな学力について

- ・ 保育園では遊び中心の時間を過ごしているが、小学校に入学すると時間の区切りが大きくなる。それが児童によっては良い効果が出る場合と、そうでない場合がある。座学の学習様式についても、良い効果が出る場合と、そうでない場合がある。児童は様々な環境で力を発揮するので、サポートルームなど多岐にわたった環境設定はありがたい。
- ・ どうしても読書が苦手で、年間で1,2冊程度にとどまっている。スマホで読めることで読書につながると思うが、視力的なことや様々な情報が入ってくることで心配な点も多い。
- ・ 保育園でICTを教材として取り入れてはいない。家ではほしがれば与えていると思うがなかなかスマホに時間を費やしてしまう。ルールを決めているが、なかなか難しい。すべきことを後回しにしてどうしてもだらだらしてしまう。
- ・ 最近では会議の主流は遠隔。若年層の場合、機器の操作の仕方は優れている。しかし、文章表現力をつけていかななくてはならない。

豊かな心・健やかな体について

- ・ なかなかスマホから手を離せない若者の話になるが、親世代も同様。そういう姿の影響が出てしまう。読書をしないとなかなか文章が書けない。受験の論文のことを考えると、思ったことを文で書くことは大切だと感じる。
- ・ これはだめという指導だけではなく、生きていくのに自分で判断する力を育てていかななくてはならない。いろいろな情報の中で自ら考えられる人間を育てていく。地域と保護者が協力して育てていくという意識が重要。
- ・ 悪い言葉遣いには過度に反応しないようにしている。特に幼少期は耳に残る言葉が多く、意味やニュアンスを考えていない。言葉のバリエーションが少ない。成長していく過程で、いろいろな言葉を聞いていくので、言葉を選択していける人間を育てていく。

信頼される学校・互いに認め合う学校について

- ・ 担任が昼休みなどを利用して、宿題直しに付き添ってくれていることを知らなかった。学校での取組を発信してもらい、様子を知ることによって家庭でもできることが増えていくと思う。
- ・ Home & School の機能を紹介する機会があると良い。
- ・ 市が児童の居場所作りをコミュニティセンターで作ろうとする動きがある。児童が利用する場合にいったん帰宅してからの方が良いか（学校が考える児童の安全管理は、朝自宅を出てから帰宅するまでなので、利用前に帰宅するのが望ましい。）

令和6年度 家庭・地域・学校協議会委員

番号	氏名	団体名等	備考
1	古木 敬三	新保地区区長会長	地域代表
2	塩谷 圭司	浜四郷地区区長会長	〃
3	丸子 君代	民生委員代表	〃
4	午房 守治	新保コミュニティーセンター長	〃
5	濱中 妃史	浜四郷コミュニティーセンター長	〃
6	秋山 美穂	米納津保育所長	〃
7	松原 浩人	PTA会長	家庭・母親代表
8	村上 佳子	PTA副会長	〃
9	上田 康央	校長	学校
10	森阪 貴徳	教頭	〃
11	平山 大造	教務	〃